

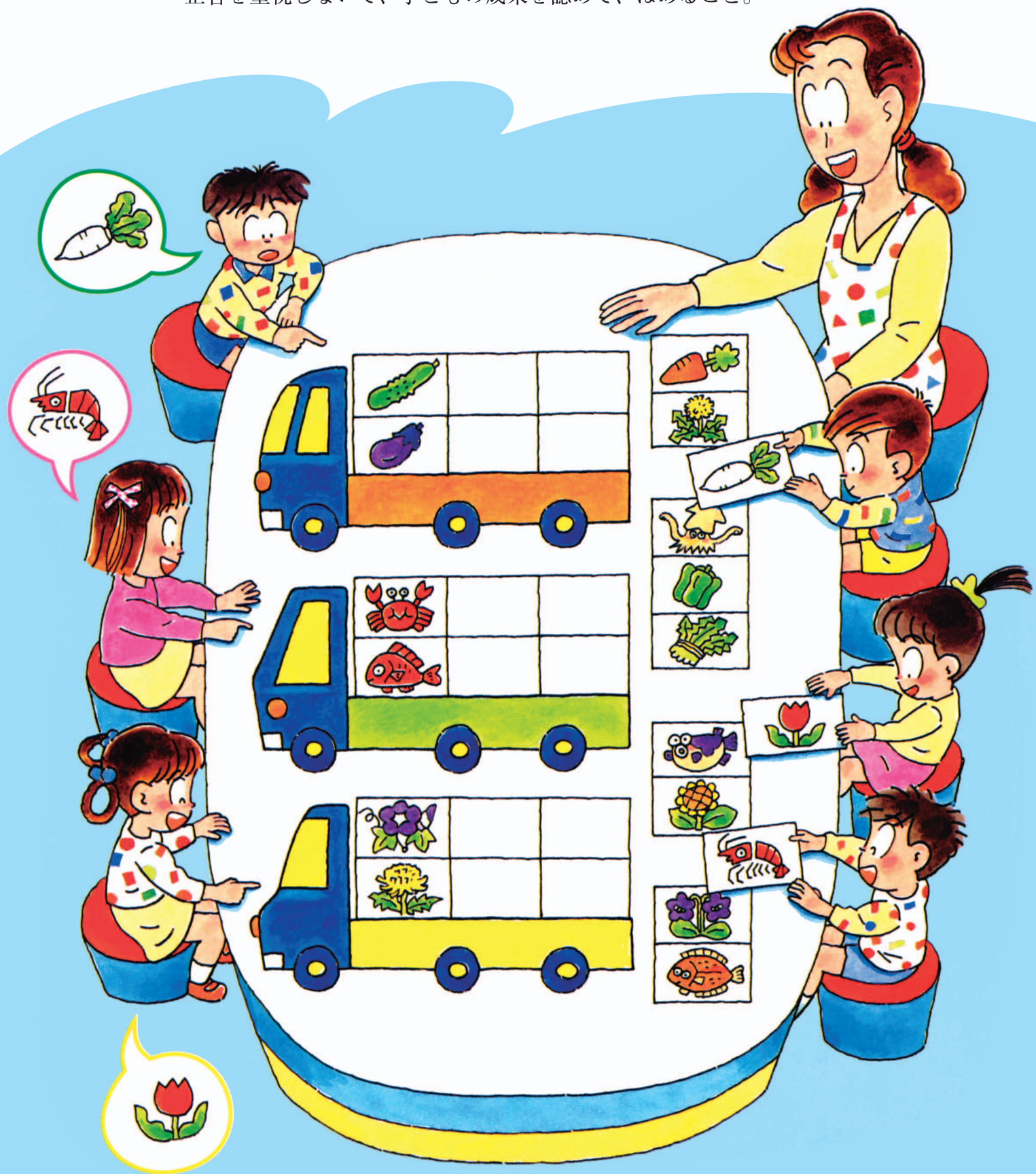
年少(3才児)教材の一例

～教材名 [やさい・さかな・はな]

単 元：概念で分類を理解する。(3才児の重点目標の一つ)

ねらい：与えられた絵を見て、同じ仲間(種類)のものどうしを見つけて3台のトラックに分類して積むようにする。～分類の思考能力を養う。

留意点：自分で考え、自分で解決する習慣を身につけることに重点。
正答を重視しないで、子どもの成果を認めて、ほめること。



年中(4才児)教材の一例

～教材名 [どんなかお]

単 元：行動(表情)で分類を評価する。(4才児の重点目標の一つ)

ねらい：うしろ向きの人物の状況(概念)・ポーズ(行動)を見て、どんな気持ちで、どんな表情の顔をしているかを判断して、同じ表情の顔のところに分類しておく。比較・判断力の育成。

留意点：自分で考えて、カードを台紙の顔の表情のところに置かせる。決して間違っている、おかしいといった指導はしない。

：その子の考えを聞いて認めること。

